

## 編集後記

鶏口となるも牛後となるなかれ、という諺は中国の歴史書「史記」が由来です。小さな集団のリーダーで居るほうが大集団の下っ端より良い、と。でも鶏より牛のほうが優れた集団ならどうでしょう？ たとえ1年でも上位の組織で切磋琢磨すれば将来“牛口”になる力をつけられるかも？と願いながら鹿児島ユナイテッドを応援します。頑張りましょう！

(編集委員 關根 さおり)

我が街の鹿児島ユナイテッドFCが苦しみながらも悲願のJ2復帰を果たしました。最後まであきらめない選手たちの頑張りに感動しました。2024年は新たなステージで大いにチャレンジしてくれることでしょう！悪夢の2019年のような降格争いではなく、昇格争いからんでいけることを願っています。近い将来J1への切符を掴んでほしいものです！

(編集委員 今村 直人)

ロシアのウクライナ侵攻に続きイスラエルがガザに侵攻し、どちらも収束が見えません。戦地の人々の惨状を伝える報道には胸が痛みます。翻って当たり前の様に平和な日常を送れる有り難みを改めて実感します。裏金疑惑に揺れる政府ではありますが、我が国が決して戦禍に巻き込まれることのない様、政治・外交の力を信じたいと思います。今年も良い年であります様に。

(編集委員 森岡 康祐)

ご存じの方も多いと思いますが今年の7月3日から、20年ぶりに紙幣が刷新されます。1万円札が渋沢栄一、5千円札は津田梅子、千円札が北里柴三郎に変わり、特徴として、偽造防止対策で肖像画の3D画像が回転するように見えるホログラム技術や、金額が漢字の表記より洋数字が大きくなっています。聖徳太子から福沢諭吉に変わったのが40年前ですから、最初かなり違和感もあるかと思いますが、慣れてくるかと思いますが、楽しみに待っていたと思います。今年もイベント等も沢山あり、とにかく楽しんで頑張りましょう。

(編集委員 角 純啓)

今年の干支は甲辰。“甲”は生命や物事の始まりと成長を、“辰”は変革や激動を意味し、東洋では古来より権力や隆盛の象徴とされていました。昨年半ばからコロナ規制が緩和され、以前の賑わいが戻りつつある中、政治・社会的にも大きな変化が起こる年になるかもしれません。願わくば良い方向へ変化することを期待しています。

(編集委員 寺口 博幸)

「辰」は、白川静の人名字解によると二枚貝が足を出して動かしている様子に由来し、「振(シン、ふる)」、「娠(シン、はらむ)」などが派生しました。また、金文に「辰(とき)は五月にあり」とあるようにオリジナルな読みは「とき」で、干支の5番目に転用されて「たつ」となったそうです。丑年の5月生まれの我が名「辰彦」の読みは「ときひこ」です。

(編集委員 島田 辰彦)

医療情勢の変化は年々速くなっています。2024年は、「医療・介護・障害福祉」診療報酬のトリプル改定があり、医師の働き方改革が施行されます。鹿児島市医報は、迅速な情報提供ができるよう努力いたします。様々な事がありますが、日本人の「心」を忘れることなく日々「精進」していきましょう。2024年が素晴らしい1年となりますことを祈念いたしております。

(編集委員長 帆北 修一)